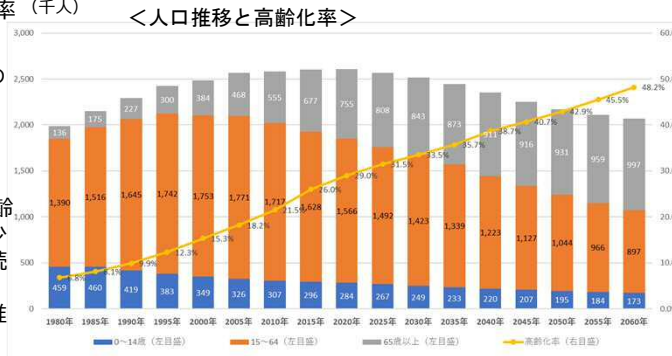


I 圏域の概況データ

1 人口

(1) 圏域の人口推移と高齢化率 (千人)

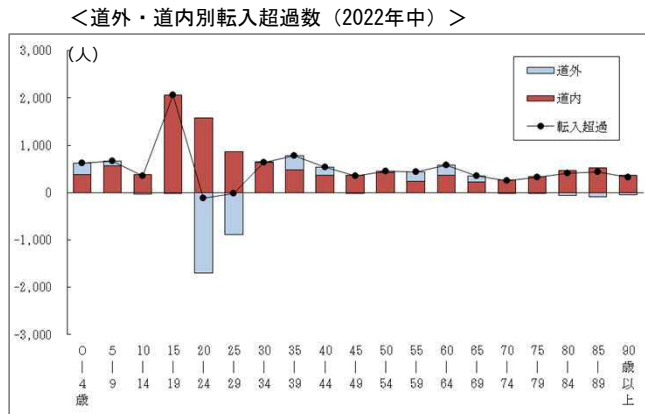
・圏域の人口は、2020年には約260万人であったが、直近の2023年では259万人となっており、2060年には約206万人と推計。
 ・また、2020年時点で高齢化率は約29%となっており、高齢者は今後も増加する一方、年少人口と生産年齢人口は減少し続け、高齢化率は2040年には約39%、2060年には約48%と推計。



出典：「国勢調査」(総務省)、「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月公表)」(国立社会保障・人口問題研究所)

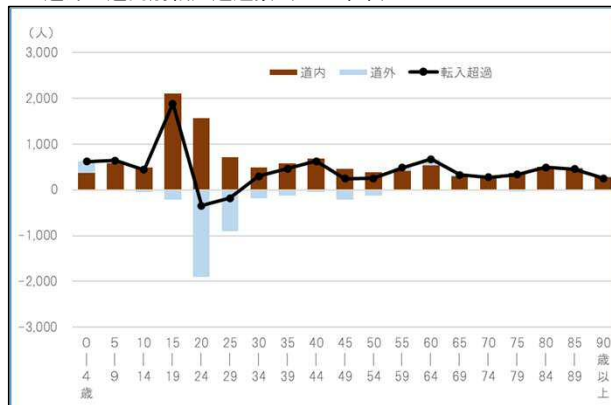
(2) 圏域の転出入の状況

・圏域の転出入数を年齢別にみると、道外との関係では、20歳代は2017年時点(下図)から引き続き転出超過となっているが、30歳～44歳は転入超過に転じている。



出典：「住民基本台帳移動報告」(総務省)

<道外・道内別転入超過数(2017年中)>



出典：「住民基本台帳移動報告」(総務省)

(3) 自然増減・社会増減の推移 (人)

・自然増減は、減少幅が年々拡大し、2021年では約15千人の減少となった。
 ・社会増減は、増加していたが、2020年以降は自然減が社会増を上回っている。



出典：「住民基本台帳移動報告」(総務省)

2 産業構造

<圏域内民営事業所売上(収入)金額>

(単位:億円)

	第1次産業		第2次産業		第3次産業		総数	
	売上	構成比	売上	構成比	売上	構成比	売上	構成比
札幌市	141	21.2%	29,874	69.2%	216,847	88.4%	246,862	85.3%
小樽市	15	2.3%	2,325	5.4%	6,059	2.5%	8,400	2.9%
岩見沢市	84	12.6%	1,463	3.4%	3,848	1.6%	5,395	1.9%
江別市	42	6.3%	1,362	3.2%	3,423	1.4%	4,827	1.7%
千歳市	130	19.5%	2,913	6.7%	4,099	1.7%	7,142	2.5%
恵庭市	30	4.5%	1,858	4.3%	2,285	0.9%	4,173	1.4%
北広島市	38	5.7%	1,206	2.8%	3,952	1.6%	5,197	1.8%
石狩市	38	5.7%	1,854	4.3%	3,719	1.5%	5,611	1.9%
当別町	42	6.2%	118	0.3%	529	0.2%	992	0.3%
新篠津村	12	1.8%	26	0.1%	76	0.0%	113	0.0%
南幌町	24	3.6%	116	0.3%	168	0.1%	307	0.1%
長沼町	70	10.5%	61	0.1%	300	0.1%	482	0.2%
圏域計	667	100.0%	43,177	100.0%	245,306	100.0%	289,503	100.0%
北海道(注2)	8,542	7.8%	108,786	39.7%	391,353	62.7%	508,681	56.9%

出典：「令和3年経済センサス-活動調査」(総務省)

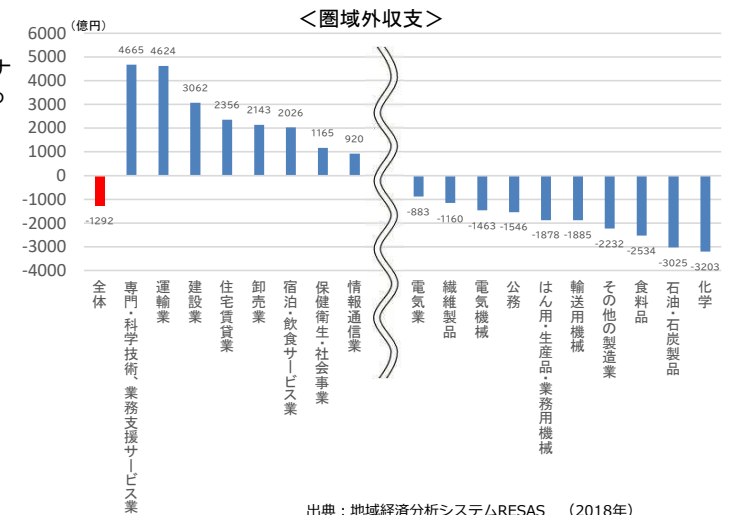
注：「北海道」の構成比は、「圏域計」の「北海道」に占める割合を示す。

(1) 民営事業所売上

・圏域内民営事業所売上(収入)金額は、約29兆円であり、北海道内の約57%を占めている。

(2) 圏域外収支

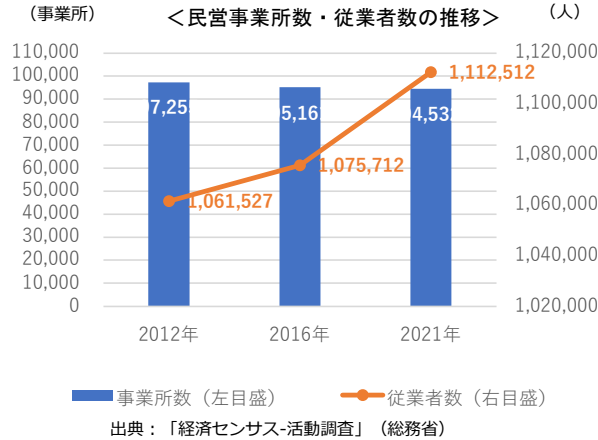
・圏域外収支はマイナス約1,300億円となっている。



出典：地域経済分析システムRESAS (2018年)

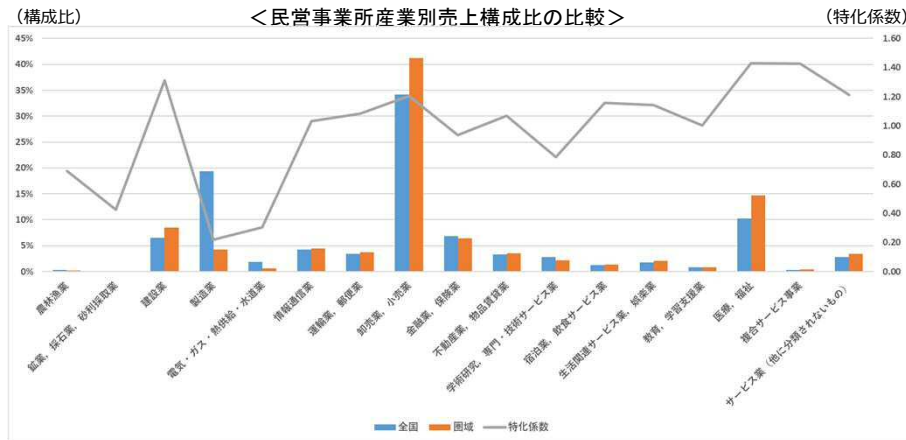
(3) 民営事業所数・従業者数の推移

・2012年から2021年にかけて、圏域内の民営事業所数は減少傾向であるが、従業者数は増加している。



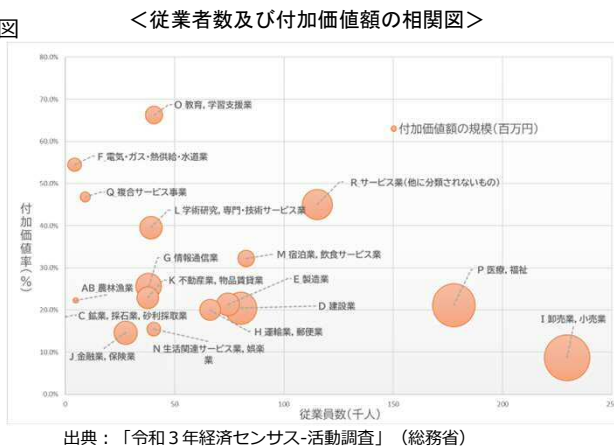
(4) 民営事業所産業別売上構成比の比較

・全国と比較すると全体に占める製造業の売上構成比が小さく、卸売業・小売業、建設業、医療・福祉の売上構成比が大きい。



(5) 従業者数及び付加価値額の相関図

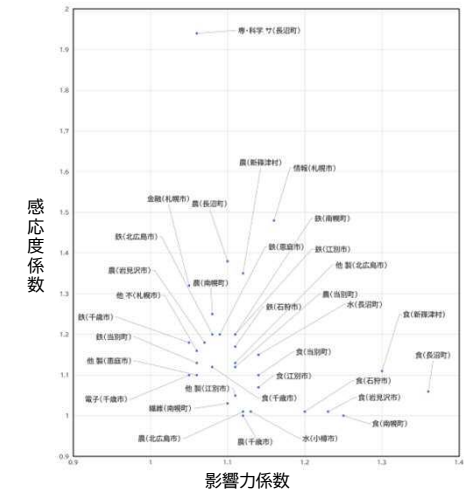
・「卸売業、小売業」及び「医療、福祉」は従業員数が多く売上額も大きいが付加価値率が低い。



(6) 影響力係数と感応度係数の相関図

・圏域の多くの市町村で「食品製造業」の影響力係数が高く、「食品製造業」への新たな需要が産業全体に与える生産波及の影響が強い。
・また、多くの市町村で「農業」の感応度係数が高く、産業全体の需要が増えた場合に「農業」が強い影響を受けることになる。

＜影響力係数と感応度係数の相関図＞



(7) 再生可能エネルギーのポテンシャル

・2018年3月末時点の圏域の導入容量と比べ、いずれの項目についても増加している。

＜再生可能エネルギーの導入容量＞

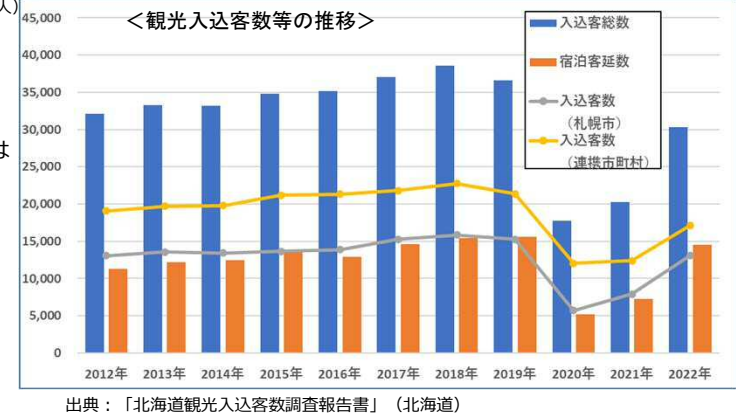
市町村名	太陽光発電		風力発電		水力発電		バイオマス		合計	
	2018.3	2023.3	2018.3	2023.3	2018.3	2023.3	2018.3	2023.3	2018.3	2023.3
札幌市	50,898	85,235	0	20	400	1,070	21,850	21,850	73,148	108,174
小樽市	3,216	9,663	6,600	40,600	0	0	1,274	1,274	11,089	51,536
岩見沢市	14,135	21,237	0	0	0	0	672	676	14,807	21,912
江別市	14,989	30,048	20	20	0	0	20,630	25,910	35,638	55,978
千歳市	52,951	75,107	0	0	0	0	29	29	52,980	75,135
恵庭市	13,310	21,674	0	0	2,260	4,005	30	480	15,600	26,159
北広島市	15,333	22,559	0	0	0	0	100	100	15,433	22,659
石狩市	13,954	28,820	9,800	35,383	0	0	1,200	52,700	24,953	116,903
当別町	2,973	5,964	0	0	0	0	0	1,089	2,973	7,053
新篠津村	2,236	4,413	0	0	0	0	0	0	2,236	4,413
南幌町	3,103	3,463	0	0	0	0	0	0	3,103	3,463
長沼町	5,236	9,118	0	0	0	0	0	0	5,236	9,118
圏域計	192,333	317,301	16,419	76,023	2,660	5,075	45,784	104,108	257,196	502,503

出典：「固定価格買取制度情報公表用ウェブサイト(再生可能エネルギー発電施設の導入状況等)」

3 観光・交流

(1) 観光入込客数

・観光入込客数は、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、落ち込んでいたが、2022年度からは回復傾向にある。



4 医療・介護

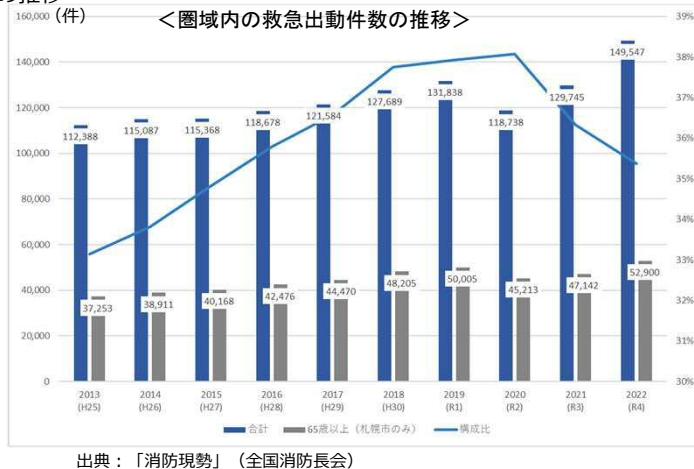
(1) 医療需要及び介護需要

・要介護・要支援認定者数は増加しており、介護需要が高まっている。
 ・一方で、生産年齢人口は減少する推計となっていることから、医療介護人材の需給ギャップが拡大することが懸念される。



(2) 圏域内の救急出動件数の推移

・圏域内の救急出動件数は、年々増加傾向となっており、今後高齢化の進展により、さらに増加が見込まれる。



5 都市機能

(1) 主な公共交通機関（鉄道、地下鉄、バス、航空機、船舶、高速道路等）の利用状況

・コロナの影響もあり、利用者は減少している。

＜主な公共交通機関の利用状況の推移（1日平均）＞ (人)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
JR札幌駅	99,436	99,593	98,122	64,571	66,153
地下鉄さっぽろ駅	90,496	92,258	87,120	57,829	62,447
地下鉄大通駅	79,847	80,878	80,694	56,475	60,468
丘珠空港	689	729	733	445	537
新千歳空港	63,267	64,752	62,507	17,634	25,286

出典：札幌の都市交通データ、「空港別順位表（年度）」（国土交通省）

6 行政施設

(1) 行政施設（建物）の建築年度別整備状況

・1970年から2000年に建設された公共施設が多く、今後、施設が更新時期を迎えることから、更にコスト増が予想される。

